



アルゼンチン通信



第24号(最終号) 2026年07月31日発行(毎月月末発行予定)

JICAシニア海外協力隊2024年1次隊:経営管理

玉東町グローバル2024年03月卒業生

鈴木功二 サンティアゴ・デル・エステロ在住

- ・このたびの熊本地震により被害を受けられた方々に、心よりお見舞い申し上げます。私がお世話になった熊本で、人的被害や住宅被害、避難状況や交通状況などのニュースに触れるたび、胸が締めつけられる思いがします。
- ・時の流れは早いもので、私がアルゼンチンに来てからすでに二年が経ちました。任地であったサンティアゴ・デル・エステロを巣立ち、今は首都ブエノスアイレスに滞在しています。8月4日にここを出発し、6日に日本へ到着、そして7日から高知県で新たな活動を始める予定です。従って、これが最後の「アルゼンチン通信」となります。
- ・7月初旬は最低気温が0℃近くまで下がるほど冷え込みましたが、中旬には日中の最高気温が30℃を超える日もありました。マフラーが必要な日もあればTシャツで過ごせる日もある、冬なのに突然夏が訪れるような、不思議な感覚です。南へ千キロ以上下ったブエノスアイレスでは、日や時間帯によって寒さが際立ちます。
- ・7月は二つの祝日がありました。なかでも7月9日の独立記念日はアルゼンチンにとって最も重要な日で、市内では盛大なセレモニーが催されました。さらに7月25日は地方独自の祝日で、1553年にスペイン人探検家フランシスコ・デ・アギーレがサンティアゴ・デル・エステロ市を建設した日です。0時の花火、民族太鼓のパレード、アルゼンチン対イングランドのラグビーのテストマッチ等々、7月は「お祝い月間」でした。
- ・サンティアゴ・デル・エステロ市はアルゼンチン最古の都市の一つとされますが、私が住んでいた京都のように古都の遺跡が残っているわけではありません。博物館には4000年前の隕石や恐竜の展示はあるものの、1553年以前の人々の暮らしについては情報がなく、日本的な「古都」とは趣が異なると感じました。
- ・7月はワールドカップの月でもありました。決勝戦は残念な結果に終わりましたが、スペインのボール支配が長かったにもかかわらず延長戦の一失点で済んだのは大健闘だったと思います。しかし試合終了後、アルゼンチン選手がスペイン選手を押し倒してレッドカードになった場面に残念でした。小学生の時、学校の代表選抜に選ばれるほどサッカーに夢中だった私が中学でサッカーをやめた理由を思い出します。大人の試合で「ずる賢さ」を目の当たりにしたからです。私は「正々堂々と戦え、卑怯な真似はするな。勝った時は負けた相手を想いやれ。」と教えられて育ったため、サッカーの世界に馴染めませんでした。

熊本地震についてのニュース@アルゼンチン



7月お祝い月間：大通り舞台でのコンサート



7月お祝い月間：自由広場の光線



ワールドカップ決勝戦のハーフタイム:街の様子



・今回の通信では、2年前の第一号で掲げた個人的命題と個人目標について、今の考え/状況を報告します。

- 1) 個人的命題：かつて先進国だったアルゼンチンがなぜこのようになってしまったのか？
- ・多くの人は「政治が悪い。大衆迎合のポピュリズム、財政を無視したバラマキ政策が原因だ」と言います。確かにその側面は大きいのですが、それだけではありません。私が二年間観察してきた結果としての推論は、「競争環境が適正ではない」ことです。ミレイ政権下で輸入自由化が進み競争が激しくなると、倒産件数が増え、街中でも閉鎖した店舗が目立つようになりました。
 - ・物価は日本と同じ水準でも、モノやサービスの質は低く感じます。その一因は、企業や組織での競争が緩やかすぎることです。人事考課には能力評価はあっても業績評価がなく、努力して結果を出しても待遇に反映されません。やる気があってもなくても同じ待遇なら、人は努力しなくなります。結果として業績は伸びず、競争力も強化されず、質の向上に繋がりません。
 - ・過度な競争は問題ですが、逆に競争が緩いのも問題で、努力が報われる社会であってほしいと願います。

2) 個人目標：アルゼンチンの23口 すべてを訪問すること
結果として隣の州トクマンに業務で訪れただけでした。理由は三つあります。

- 1) JICAの規則で一定レベル以上のホテル予約やスケジュール提出が必要で、バックパッカー経験者の私には「旅」ではなく「旅行」に感じられる為。あらかじめ決められたルートの旅では、現地の実情が見えてきません。
- 2) JICAから受け取るのは給与ではなく、現地生活費である為。現地生活費とは、現地で生活する為の費用であり、JICAの定義に、個人旅行は含まれていません。厳密に言えば、現地生活費を使っの旅行は目的外使用であり、元々は日本国民の税金なので公金でもあり、私は厳格に適用しました。
- 3) どこへ行っても既視感があり、心を動かされるのはむしろ貧困地区を訪れる時だったこと。日常生活の街中でも季節や時間によって景色が変わり、新たな発見や出会いがあったため、飽きることがなかったことも理由の一つです。

私は8月から高知県で活動を始めますが、機会があれば熊本でのボランティア活動にも参加したいと考えています。その際はどうぞよろしくお願いいたします。

最終出社日：3Sリーダーのマルコスさんと



別れの空港で：チャーリーさんと



20口も今も建設中の事務所近くの総合病院、いつ完成するのか誰も知らない。



ベルグラノ將軍像と經濟省/教育省ビル：新旧が調和したサンティアゴデルエステロで私が最も好きな光景。INTI事務所と同じぐらい頻繁に通った。



外務省を表敬訪問



(スペイン語版を同時配信)

鈴木功二